

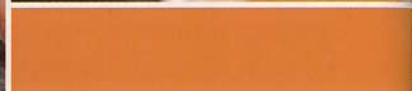
# 神戸大学

KOBE UNIVERSITY 2005-2006



## Reality of Studies

# 社会で起こるさまざまな経済問題の解決は待ったなしの課題です



## Voice of Student



## 利潤を増やし、費用を減らすには、社会はどうあるべきか。

### 工場見学やゼミ内部での交流も盛ん

社会で役立つ知識を身につけるため、経済学部を選びました。特に興味深かった講義は、基礎科目の経済原論（ミクロ・マクロ経済学）。企業や家計や政府といった経済主体の効用（満足）や、利潤を増やすといった目的がより良く実現されるために社会はどうあるべきかを捉える学問で、今まで自分が考えもしなかった方法で社会を見つめることに関心を持ちました。現在のゼミを選択したのは、教授のサイトをパソコンで閲覧し、研究のみをするのではなく、工場見学やゼミ内部での交流も盛んに実施しており、自由度が高く、たくさんの体験ができると感じたため。研究内容は近年の日本経済を中心に、歴史や諸外国との関係（貿易）を調べたり比較を行ったりしています。また、ゼミのはじめには日本経済新聞を読み、現在のトピックについてみんなで話し合い、外国の政治・経済の動きに日本がどのように関係しているのかなどを学んでいます。

### 高度な学問の修得と学生生活を両立

専攻分野以外では、対人関係を築くことの大切さと難しさ、積極的に集まりを企画し、参加することの意義を学びました。入学前は、大学は研究や論文など高度な学問を享受するための場と考えていましたが、実際はアルバイトや部活・サークルなどを楽しみ、視野と行動範囲を拡大させることもできます。大学内には多様な志向を持つ人が多く、自由で開放的。私は大学に入って下宿を始めたので、自分一人で自分の生活を決定することの重要性も感じました。一方で、授業のレベルは低くなく、講義も幅広い内容を取り扱っているので学者的な知識も身につけられます。今後挑戦してみたいことは、英語の語学力を上げて外国で少しの間暮らすこと。将来の夢は社会貢献です。大学に入ったら2年間くらいは基本的には何をしても良いので、大学受験までは精一杯勉強してみると良いと思います。受験を通じて忍耐力や集中力の向上に努めて下さい。

## Message of Dean



学部長

中谷 武

Takeshi Nakatani

数多くの優れた人材の輩出と  
現実社会への強い関与が特徴。

**神** 戸大学経済学部の特徴は、まずその歴史と伝統です。日本で2番目の高商である神戸高商を前身に、これまで数多くの優れた人材を世に送り出してきました。もう一つの特徴は現実社会への強い関与です。経済学は日々の暮らしに関わる学問ですが、近年のグローバル化や少子高齢化によって社会は大きく変化しました。その結果、経済問題はどこでも国民的な社会問題となっています。いま経済学部は経済経営研究所と一緒に「グローバル化と少子化の下での持続可能経済の研究教育拠点」(COE)をテーマにこの問題に精力的に取り組んでいます。

我々が重視していることは3つ。まずは徹底した少人数教育で、10人程度からなるゼミナールは経済学部の伝統です。第2に、60人近い第一線の研究者が理論、歴史分析から、政策、環境・技術、比較経済論まで8つの大講座に展開しています。質量共にこれほど充実した経済学部は他にないでしょう。第3は、学習インセンティブの重視です。例えば、意欲と能力のある学生のためのアドヴァンストコース、優秀卒業論文賞、対抗ゼミナールなど、学生の自発的な努力を奨励する取り組みが定着しています。これを通じて、4年間に経済学部生が見違えるほど成長するのを見るのは実に嬉しいことです。

**学** 生諸君に言いたいことは、間違っていないので自分の意見を主張することです。我々は常に成長過程にあり、不完全なのは当然です。OUTPUTという言葉があります。自分の意見を外に(OUT)出す(PUT)ことをしなければ他人との真の交流や知的な社会生活は成り立ちません。さらに付け加えるなら気概。私が学生のとて、鉄鋼会社に就職する友人が、社長が考えるようなことを真剣に語っていました。神大生にもっと天下国家を論じる気概を求めたいものです。



経済理論だけでなく、  
現実の出来事を交えながら  
講義を展開。インターネットを  
生かす分析能力を高める  
情報教育でも一歩先を行く。

## 旧社会主義国の市場経済移行から日本経済のあり方を問う。

## 目的地である市場経済システムとは

旧ソ連・東欧という旧社会主義国における市場経済移行の理論的問題の考察とその実態を分析しています。なぜ社会主義経済は捨て去られたのか。そして市場経済移行によって何が起きたのか。市場経済移行開始からおよそ15年が経ちました。多くの中・東欧の国々はEU加盟も果たし、市場経済システムの形成という当初の目的は達成しつつあります。今後は競争力を引き上げて、欧米諸国や日本とどのように競争するのが問題です。ロシアなど旧ソ連の国々では、依然としてどうすれば市場経済移行という課題を達成できるのかを現地の人々と考えていかなければなりません。そして、社会主義経済や市場経済移行の問題点、移行の目的地である市場経済システムはどのようなものかを分析することは、実は反面教師として私たち日本の経済のあり方にもインパクトを与える問題でもあるのです。

## 経済的思考に基づいた能力の育成

学生にはあまりなじみのない国を扱っていますので、講義の各回でそれぞれの国や都市の風景、歴史などに関係する写真やビデオを紹介し、少しでも実感を持ってもらえるよう努めています。また、理論的な話だけではなく、現実の出来事を逸話として付け加えることで講義に立体感を持たせています。ゼミ生の兄貴と言うには年をとり過ぎてしまいましたが、できるかぎり同じ目線に立って話そうにも努めてきました。幅広い問題を的確に、できれば経済学的思考に基づいて論理的に処理できるような能力を持つ人材が育てたいと考えています。経済学は、社会で起こっているさまざまな現象を扱っていますので、私たちの住む日本あるいは世界の歴史や地理、今どきのようなことが起こっているのに関心を持って下さい。多くの本を読み、新聞やテレビのニュース、インターネットなどを通して世の中の動きをフォローしてもらえればと思います。

## Teacher's Talk



教授 比較経済論

吉井 昌彦

Masahiko Yoshii